

## 野外捕獲されたカミツキガメおよびワニガメについて

笹井隆秀 (須磨水)・上野真太郎 (東大・農・生圏 / (株) 自然回復)・東口信行 (須磨水)

Details of *Chelydra serpentina* and *Macrochelys temminckii* captured in the wild

By Takahide SASAI, Shintaro UENO and Nobuyuki HIGASHIGUCHI

カミツキガメおよびワニガメはアメリカ原産の淡水性カメ類である。カミツキガメは外来生物法で特定外来生物に、ワニガメは動物愛護法で特定動物にそれぞれ指定されているため、現在は飼育が規制されている生物である。しかし、大型に成長することや、法規制が進んだことにより、飼育放棄された個体が野外で発見される例が後を絶たない。

そこで、神戸市立須磨海浜水族園では警察などからの両種の引き取り依頼に対応している。2010年4月～2017年8月までに持ち込まれた個体数は、カミツキガメが12個体、ワニガメが6個体であった。その際、捕獲地点、発見時の状況についての聞き取りを行い、個体の体サイズを記録した。捕獲地点は姫路市から川西市までの兵庫県南東部が多かった(図1)。捕獲された季節については、カミツキガメは3月～12月の期間であったが、このうち5月、6月、9月の3か月間で全体の75%を占めていた。ワニガメの場合は、5月～9月であったが、個体数が少なく、季節的な傾向は不明であった。両種が捕獲された環境については、河川・水路が約50%、路上が約30%、その他が約20%であった。大きさについては、カミツキガメは甲長約209mm～316mmであり、小型の2個体(背甲長209mm, 210mm)以外は全て260mm以上であった。ワニガメは238mm～564mmであった。

兵庫県内の瀬戸内海側を中心に捕獲されたが、これについては当園の立地状況を反映しており、周辺地域のみ個体が持ち込まれている可能性が高い。西日本におけるカミツキガメおよびワニガメの野外での発見例や生息についての知見はまだ不足し、情報が集まりやすい水族館や動物園が連携することで、全国的な状況を把握できる可能性が高いと考えられる。

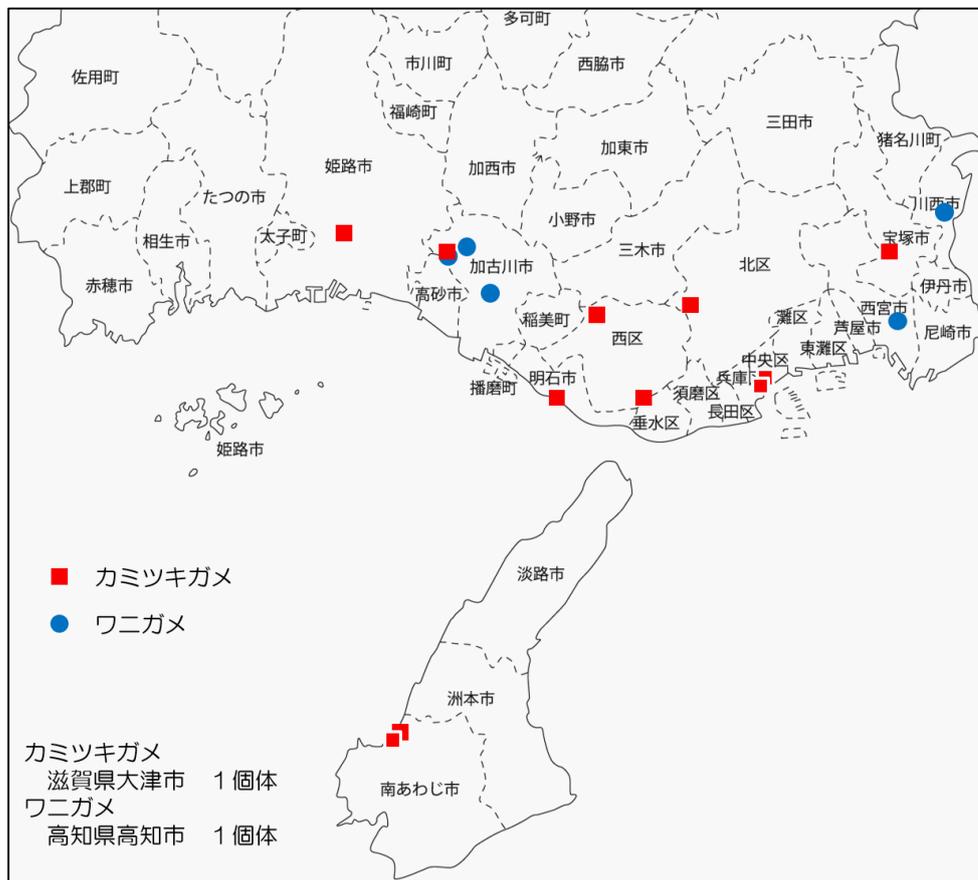


図1. カミツキガメおよびワニガメの捕獲地点 (2010年4月～2017年8月まで)